



自分たちにできることは何かを真剣に話し合う生徒の姿がありました

写真提供/遠野西中

## 遠野西中で「全国サミット」報告会

全国の児童生徒が一堂に会しいじめ防止について考える「全国いじめ問題子どもサミット」(1月23日、東京都)の報告会は2月8日、遠野西中で開催されました。

同校からサミットに参加した3人の生徒が、サミットで学んだ他校の事例などを全校生徒に報告。さらに、サミットで話し合われた「もし、いじめを発見したら」をテーマに、自分たちが取るべき行動について、対話形式で話し合いました。

## 特集2

# 「いじめ」から子どもを守るために

する側も、される側も心に深い傷を負う「いじめ」。悲しいことですが、全国ではいじめを苦に不登校になったり、自殺したりしてしまう子が、後を絶ちません。子どもは、将来の無限の可能性を秘める遠野の宝。子どもを守るために、私たちにできることを考えます。



### Interview この人に聞きました

市教育委員会  
指導主事  
**遠藤 暢睦** さん  
Endo Nobuchika

### 市内のいじめ認知件数(平成27年度)

# 118

件(小学校74件、中学校44件)

### 解消状況(平成27年度末現在)

解消107件(小学校67件、中学校40件)  
継続支援中10件(小学校7件、中学校3件)  
解消に向けて取組中1件(中学校1件)

## Step1 知る

「いじめ」とは何か。本市の現状は――。まず、正しく知ることから始めよう。

### いじめとは

「いじめは、相手に心理的・身体的な苦痛を与える行為。時には命を奪うこともある重大な人権侵害であり、絶対許すことができない行為です」と、市教育委員会の遠藤暢睦さんは力説します。

児童生徒が学校という集団生活を送る中で発生する「いじめ」。全国ではいじめによって苦しめられた児童生徒が、不登校になったり、自殺してしまったりする例が後を絶ちません。県内でも、昨年6月、矢巾町で、いじめが原因と思われる中学生の自殺という悲しい事件が起きました。「子どもたちの命を守るためには、いじめが深刻化する

る前に、早期発見し早期対応することが最も重要です」と遠藤さんは指摘します。早い段階で芽を摘むために、以前ではいじめと認知されていなかった軽微な行為も、現在はいじめとして捉え、解消を図っていくようになってきているそうです。「ちよつとした悪口やいたずらなどの軽い行為でも、される側が苦痛を感じれば、それは立派ないじめ。周囲の大人がしっかりと対応しなければなりません」

### 本市の現状

いじめを防ぐため、市は昨年12月、市いじめ防止等基本方針(以下、方針)を策定。この方針は、▽未然防止▽早期

発見・早期対応▽遠野一丸で子どもを健やかに育てる―ことを目標とし、学校だけでなく、行政や関係機関、家庭、地域などが連携し、さまざまな対策に取り組むことを方向付けています。

毎年実施している、市教育委員会による市内の小中学校の実態調査では、昨年度は118件の事案をいじめとして認知しました。「こんなに多いの!？」と驚く人もいるかと思いますが、ほとんどが初期段階。認知件数が多いということは、その分だけいじめの芽を摘むことができたのだと、肯定的に捉えています」と遠藤さん。事実、認知後は各校で速やかに対応され、ほとんどが解消されています。「見て見ぬふりをするのではなく、些細なことも、いじめとして積極的に認知する。それが、深刻化を防ぐ第一歩だと考えています」

### 地域全体で防止

「いじめ対策は、学校だけ

### 具体例の一部

- ・いたずらする
- ・悪口を言う
- ・暴力をふるう
- ・わざとぶつかったりする
- ・SNSに悪口を書き込む
- ・無視する

### 「いじめ」の定義

国の「いじめ防止対策推進法」(H25年施行)より要約

学校内外における児童生徒の関わりの中で起こり、される側に心理的または物理的な影響を与える行為(インターネットを通じて行われるものも含む)を指します。その行為の程度に関わらず、される側が心身の苦痛を感じていれば、すべていじめと定義されます。

でなく、地域全体で取り組むことが効果的」と続けます。市は本年2月、方針を基に市いじめ防止等対策委員会(会長・柿崎肇、遠野中学校長を組織しました。学校や行政、福祉、警察、少年センター、保護者らがメンバー。委員会は、いじめ防止に向けた地域全体での取り組みを協議し実行しています。

本年6月には、児童生徒とその保護者に、いじめ防止のリーフレットを配布。今後は、▽いじめに関するアンケートの継続▽教育相談ネットワークの周知・徹底▽啓発活動▽インターネットや携帯電話などにおける情報モラルに関する研修と啓発▽未然防止策の推進―などに取り組めます。「いじめは、放課後や休日に行われるものもあります。最近では、インターネットのSNS(※)を通じたものも増えています。いじめを発見するためには、家庭や地域で子どもたちと積極的に関わり、見守りのまなざしを向けなければならない」と



※SNS…人と人とのつながりを促進・支援する、コミュニティ型のオンラインサービス。フェイスブックやツイッター、ラインなどがある





市教育委員会 教育長  
中浜 艶子 さん  
Tuyako Nakahama

## 見守りのまなざしを、子どもたちへ。

「昔はよく友達をからかったり、あだ名を言ったりしたもんだ。そんなのもいじめになるのか？」と聞かれることがあります。答えは、「言われた人が苦痛を感じると、それはいじめ」になります。

いじめの定義も、以前と比べかなり変わってきています。それは、いじめが深刻化・複雑化・多様化してきていることにあります。だからこそ、未然防止や、早期発見・早期対応が大事になってきます。

市内には、「いじめ撲滅プロジェクト」を立ち上げ、いじめ問題に積極的に取り組んでいる学校があり、その取り組みは広がってきています。大変うれしいことです。

もうすぐ夏休みになります。子どもたちは、家庭や地域で過ごす時間が多くなります。いじめがより発見しにくい環境が生まれます。遠野の宝である子どもたちを、家庭や地域の中で、たくさんの方々にしっかり見守って頂き、健全に育てていきたいものです。

### 教育委員が交代しました



【新任】  
菊池 和子 さん  
前遠野北小学校長  
60歳＝青笹町＝  
任期：平成30年11月25日まで

【退任】  
三浦 芳昌さん 48歳＝大工町＝

### Step3

# 伝える

いじめに気が付いたら、そのままにせず、すぐに伝えましょう。



市生徒指導推進協議会は、①子どもたちと積極的にあいさつを交わす②子どもたちの良い行いを見かけたらほめてあげる③危険な行為や社会ルールに反する行為を見たら注意する④いじめの疑いがある場合は連絡するーなど、夏休み中の地域による見守り呼びかけています。

「特に、いじめのサインに気が付いたら、そのままにせず、学校や関係機関に相談してください。いじめが疑われる事実を確認した場合、学校で速やかな措置をとり、関係機関と連携して対応します。相談することが、解決へのスタートなのです」と遠藤さん。

私たち大人には、自分の子どもはもちろん、地域の子どもたちも守る責任があります。いじめから、子どもたちの命を守るために、私たちにできること。それは、「知って、見守って、伝えること」です。今も、いじめに苦しみ、声を出せずに、悩んでいる子がいるかもしれません。あなたも、すぐそばに。

一方で、学校での見守りが減り、家庭と地域による見守りの重要性が増します。

「特に、いじめのサインに気が付いたら、そのままにせず、学校や関係機関に相談してください。いじめが疑われる事実を確認した場合、学校で速やかな措置をとり、関係機関と連携して対応します。相談することが、解決へのスタートなのです」と遠藤さん。

「特に、いじめのサインに気が付いたら、そのままにせず、学校や関係機関に相談してください。いじめが疑われる事実を確認した場合、学校で速やかな措置をとり、関係機関と連携して対応します。相談することが、解決へのスタートなのです」と遠藤さん。

Hot Line いつでも、お気軽に相談ください。

まごころ教育相談 (市教育委員会)

【開設日時】  
平日 8時半～17時15分  
☎62-4412

いじめ相談電話 (県教育委員会)

【開設日時】  
24時間、365日  
☎019-623-7830

### Step2

# 見守る

いじめは、早期発見・早期対応が大切。地域で見守るポイントを紹介します。

## 小さなサインを見逃さない

「いじめは、どの子も、被害者にも加害者にもなる可能性があります。被害者意識、加害者意識を理解し、子どもが発する小さなサイン(変化)に気付くことが大切です」と遠藤さんは分析します。

被害者は「家の人に心配をかけたくない」「話せばもっといじめられる」と考え、打ち明けることに抵抗を感じます。一方で、加害者は「悪いのは自分だけじゃない」「相手が平気そうだから大丈夫」と考え、いじめと認識せず、遊び半分でからかったり、いたずらをしていることが多いのです。また、家庭環境や学校生活などのストレスで、いじ

めに走っている場合もあるそうです。被害者も加害者も、日常生活の中で必ず小さなサインを発しています(下図参照)。そのサインに気付くためには、積極的な見守りが必要。「家庭で、地域で、子どもたちの様子をよく観察し、声をかけ、場合によっては相談に応じてあげましょう」と見守りの心構えを話します。

## 夏休みは地域が砦

市内の学校は7月下旬から夏休みに入ります。各地区で行事やイベントが企画され、地域住民と子どもが接する機会が増えます。夏休みは、さまざまな経験を通じて子どもたちが成長する絶好の機会。

# いじめに気付くポイント

## 被害者 (いじめられている子)

特徴  
いじめられていると言にくい

### サインの一例

- 元気がない
- 食欲がない
- 友達の話をしなくなる
- どこことなくおどおどしている
- 持ち物がなくなる
- 登校をしぶる
- 金遣いが急に荒くなる
- 服装の汚れや破れが目につく

## 加害者 (いじている子)

特徴  
いじめと認識せず、遊び半分でからかいやいたずらなどを行う

### サインの一例

- 学習意欲が低下する
- 携帯電話を放さない
- SNSなどの内容を気にする
- 成績が急に下がる
- 落書きが目立つ
- 金品を持ち出す
- あざや傷がある
- 友達を呼び捨てにする
- 友達に軽蔑した口調で話す
- 言葉遣いが荒くなる
- 買い与えていないものを持っている
- すぐかっとなって、暴力をふるう

少しでも気になったら、すぐに伝えてください！

子どもの小さなサインを察知し、身近な大人が本気で関わることが、子どもたちの心と命を守ります。